



大地

目指す子どもの姿

自分で考え 自分で決めて

自分で行動する子

2026

9

SEPTEMBER

言葉は時代とともに

足寄町立足寄小学校長 池田 圭子

言葉は時代を映す

休み時間になると、校長室に子供たちが遊びに来ます。

ある日のこと。よく遊びに来る子が、いつものように好きなものの話を聞かせてくれました。話がひと段落したところで、その子が突然、「校長先生の推しは？」と尋ねてきました。「推し？」思わず聞き返すと、「そう。校長先生の推しは何？」「推して、好きな人とか、もののこと？」「そうそう！」その子は、当たり前のように答えました。私は少し笑いながら、「そうか、『推し』か」と答えました。

少し前まで、私たちの日常で「推し」という言葉を耳にすることは、今ほど多くありませんでした。それが今では、子供たちもごく自然に使っています。「**言葉は、時代とともに変わっていくのだな。**」そんなことを感じた出来事でした。けれど、考えてみれば、「自分が好きなものを誰かに伝えたい」「この気持ちを誰かと一緒に楽しみたい」という思いは、昔も今も変わりません。「推し」という二文字の中にも、そんな思いが込められているように感じます。

新しい言葉が生まれるということ

私たちの身の回りには、「メールする」「検索する」「投稿する」「フォローする」など、少し前にはなかった言葉がたくさんあります。言葉は、社会の変化とともに生まれ、その使われ方も変化していきます。

国語学者の金田一秀穂さんも、言葉を単純に「正しいか、間違っているか」だけで捉えるのではなく、社会や時代の変化の中で、その姿を変えていくものとして捉えています。著書『あなたの日本語だいじょうぶ？——SNS時代の言葉力』の中でも、言葉の変化について、肯定的に受け止める考えが示されています。言葉は、辞書の中で静かに変わるものではありません。

人が話し、誰かが聞き、また誰かが使う。その繰り返しの中で、少しずつ姿を変えていくものです。そこには、その時代を生きる人々の暮らしや価値観も映し出されているのではないのでしょうか。

言葉の奥にあるもの

もう一つ、子供とのやり取りで印象に残っている言葉があります。あるとき、子供たちとラワンブキの写真を見ていました。大きな葉を広げたラワンブキ。その横に立つ人の姿と比べると、その大きさがよく分かります。写真をのぞき込んだ子は、目を輝かせて、「校長先生、それ、やばいです！」と言いました。私は思わず、「どういう意味の『やばい』なの？」と尋ねました。すると、その子は笑顔で、「すごいっていう意味です！」と答えました。

私が子供の頃、「やばい」といえば、「危ない」「まずい」「困った」という意味が中心でした。それが今では、「すごい」「素晴らしい」「とても心が動かされた」という意味でも使われています。

その子が本当に伝えたかったのは、「やばい」という言葉そのものではなかったのでしょうか。「こんなに大きいんだ！」「すごい！」「この気持ちを誰かに伝えたい！」そんな驚きや感動が、その一言に込められていたのだと思います。

変わる言葉、変わらない心

新しい言葉を知ることと、昔から受け継がれてきた豊かな言葉を大切にすることは、決して対立するものではありません。大切なのは、「今、自分が伝えたいことに、どの言葉が一番合うだろう」と考え、相手や場面に応じて、ふさわしい言葉を選ぶことではないのでしょうか。「この気持ちを誰かと分かち合いたい。」それは、いつの時代も変わらない人間の大切な心なのではないのでしょうか。

時代は変わります。

社会も変わります。

そして、言葉も変わります。

だからこそ、**学校も変化を恐れず、子供たちとともに新しい言葉、新しい考え、新しい時代に出会っていきたい**と思います。

今日、教室から聞こえてくる子供たちの言葉が、何十年か後には、懐かしい言葉になっているかもしれません。

そのとき、今の子供たちが次の世代に、「昔は、こんな言葉を使ってたんだよ。」と笑いながら話していたら——。そんな未来も、なんだか素敵だなと思います。

言葉は、時代とともに。

そして、心は、言葉とともに。

これからも子供たちと一緒に、言葉の変化を楽しみながら、その言葉の奥にある「心」を大切にしていきたいと思っています。

【参考文献】金田一秀穂『あなたの日本語だいじょうぶ？——SNS時代の言葉力』暮らしの手帖





子供たちの『今』を、一緒に見つめて

朝夕の風に、少しずつ秋の気配を感じるようになりました。校庭では、今日も子供たちの元気な声が響いています。日頃より、足寄小学校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。

本校では、「自分で考え、自分で決めて、自分で行動する子」を目指しています。自分のことを自分で考え、周りの人と関わりながら、自分らしい一歩を踏み出せる子どもに育てほしい。そんな願いをもって、日々の教育活動を進めています。

前期の教育活動を振り返るため、学校評価アンケートを実施しました。今回は、回答の中でも「完全肯定」にあたる割合に注目し、子供たちの今の姿を改めて見つめてみました。すると、数字の一つ一つの向こう側に、足寄小学校の子供たちの素敵な姿と、これから学校・家庭・地域で一緒に育てていきたい姿が見えてきました。



子供たちの成長を支える、温かな土台

まず、うれしく感じたのは、84.5%の保護者の皆様が「わが子にはよいところがある」と回答してくださったことです。子供のよさは、特別なことばかりではありません。友達に優しくできたこと。最後まであきらめなかったこと。毎朝元気に学校へ来たこと。好きなことに夢中になったこと。以前はできなかったことが、少しできるようになったこと。

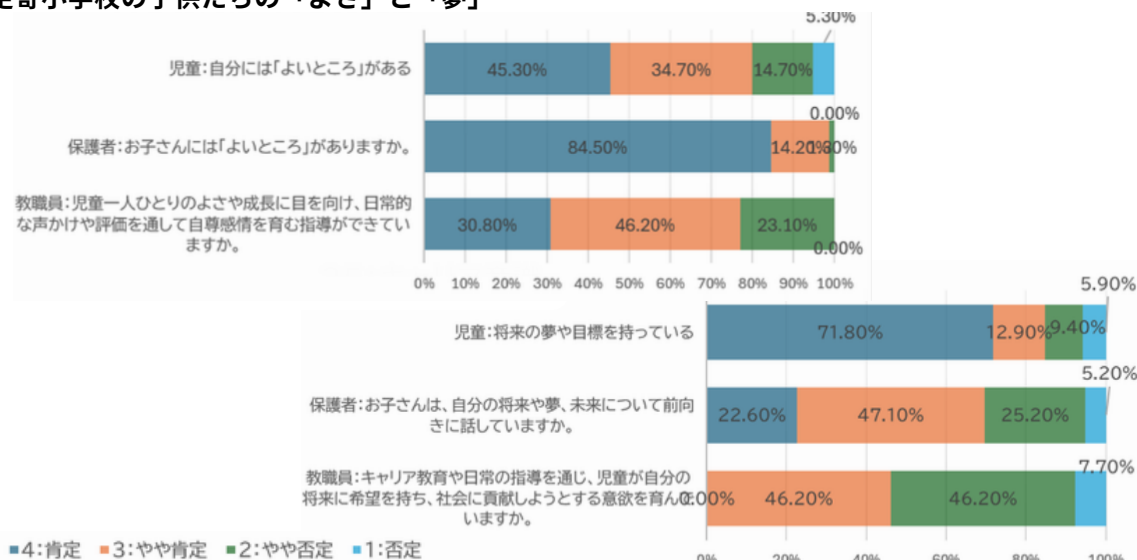
そうした一つ一つを、ご家庭の皆様が「この子のよさ」として見つめてくださっているのだと思います。子供が「自分にはこんなところがある」と思えることは、次の一歩を踏み出す力になります。ご家庭から寄せられる温かなまなざしは、子供たちの成長を支える大切な土台です。

また、84.7%の児童が「いじめは、どんな理由があってもいけない」と考えていることも、本校の大切なよさです。相手の気持ちを考え、人を大切にしようとする心が、子供たちの中に育っています。

足寄小学校には、こうした温かな土台があります。

足寄小学校の子供たちの「よさ」と「夢」

令和8年度学校評価アンケート結果より



子供たちの中にある、たくさんの「やってみたい」

71.8%の子供たちが、「将来の夢や目標をもっている」と回答しました。

「人の役に立つ人になりたい」と答えた子は62.4%、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた子は49.4%でした。子供たちの中には、私たち大人が思っている以上に、たくさんの「やってみたい」があるのかもしれません。休み時間に友達と話しているとき、「将来、〇〇になりたい」と話している子がいます。授業の中で、好きなことについて目を輝かせて話す子もいます。

そんな姿を見ていると、「夢」は、将来の職業だけではないのだと感じます。

「もっと上手になりたい」「友達と仲良くしたい」「誰かの役に立ちたい」「こんなことをやってみたい」。そうした小さな思いも、子供たちにとって大切な「夢の芽」なのだと思います。



『夢は何?』から、『何が好き?』へ

アンケートをさらに見ていくと、少し意外なことが分かりました。

子供たちの71.8%が夢や目標をもっている一方で、「子供が将来や夢について前向きに話している」と感じている保護者は22.6%でした。そして、「子供たちの夢や意欲を育む指導ができています」と答えた教員は0.0%でした。この数字を見て、考えさせられました。もちろん、これは「子供たちに夢がない」ということではありません。むしろ、子供たちの胸の中にある「やってみたい」という思いを、学校が十分にすくい上げられていないのではないかと。そして、それを家庭での会話につなげる機会も、まだ十分ではないのではないかと。

学校では、この数字をそのように受け止めています。

子供にとって、「将来何になりたい?」と聞かれるのは、少し照れくさいことかもしれません。まだ決まっていないから答えにくいこともあるでしょう。だからこそ、「夢は何?」と答えを求めるだけでなく、「最近、何が面白い?」「学校で何が楽しかった?」という何気ない会話から、子供の「好き」や「やってみたい」を一緒に見つけていくことが大切なのだと思います。

子供たちが「話してみよう」と思える大人であるために

こども家庭庁の全国調査にも、興味深い結果があります。
「自分の意見や個性を尊重してくれる」と感じる相手は、友達や家族が多い一方で、「地域の大人（近所の人）」と答えた子どもは4.6%でした。また、落ち込んだときに「地域の人に相談する」と答えた子供は2.2%。相談しない理由として、「自分ひとりで解決するべきだから」と答えた子が41.3%いました。

本校でも、31.2%の児童が、大人に相談することに少しとまどいを感じているという結果が出ています。

子供たちは、困ったときに「迷惑をかけたくない」「自分で何とかしなければ」と考えているのかもしれませんが。だからこそ、「困ったら話していいんだよ」「いつでも聞こう」と思える大人が、身近にいることが大切です。

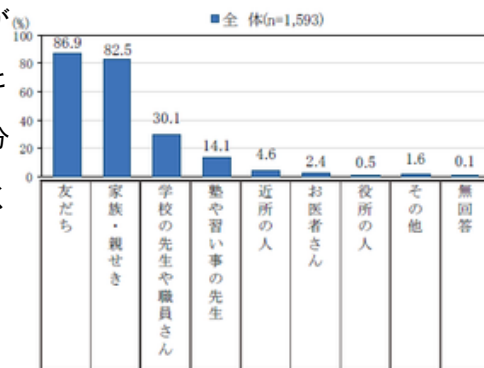
こども・若者総合調査（令和7年度） | こども家庭庁



こども・若者総合調査とは、<こども家庭庁>が実施している国の統計調査で、こどもや若者の生活実態、意識、悩み、幸福感（ウェルビーイング）、社会参加の状況などを把握し、今後の施策に生かすことを目的としています。

子供たちが「自分を尊重してくれる」と感じる相手

図表 2-1-6-4-1 個性・多様性・意見を尊重してくれる人



こども家庭庁「こども・若者総合調査（令和7年度）」
（令和8年4月公表）より

「チーム足寄」で、できること

では、私たち大人に何ができるでしょうか。

ご家庭では「今日、何が楽しかった？」

「今日、学校で何が楽しかった？」「最近、何に興味があるの？」「それ、面白そうだね。」

そんな何気ない会話を大切にいただければと思います。

すぐに答えが出なくても大丈夫です。子供の話を聞き、「やってみたい」という気持ちをそのまま受け止めてもらえることが、次の一歩につながります。

地域では「おはよう」に、もう一言

登下校や地域の行事などで子供たちに会ったとき、「おはよう」「元気だね」「頑張っているね」と、いつもの挨拶に一言添えていただけると嬉しいです。

「地域の人が自分を見てくれている」と感じることは、子供たちにとって大きな安心になります。

学校では「学び」と「夢」をつなぐ

学校では、キャリア教育を職業調べだけで終わらせず、「自分は何が好きなのか」「どんなことを大切にしたいのか」「どんなことに挑戦してみたいのか」を考える時間として大切にしていきます。

子供たちの日々の学びや成長を、学校と家庭で一緒に見つめられるような取組も進めていきたいと考えています。

子供たちの一歩を、みんなで支える『チーム足寄』

今回の学校評価アンケートには、うれしい数字も、これから考えていきたい数字もありました。

数字だけを見て「できている・できていない」と判断するのではなく、その数字の向こうにいる一人一人の子供たちを見つめていきたいと思っています。

自分にはよいところがあると思える子。

「やってみたい」と思える子。

困ったときに「誰かに話してみよう」と思える子。

そして「自分で考え 自分で決めて 自分で行動できる」

そんな子供たちを育てていくためには、学校だけではなく、家庭や地域の皆様の力が必要です。

家庭の温かなまなざし、友達を思いやる心、そして地域の皆様からの何気ない声かけ。そうした一つ一つが、子供たちの安心につながり、自分らしく一歩を踏み出す力になっていくのだと思います。

子供たちが、自分のよさに気付き、周りの人とのつながりを感じながら、「やってみたい」と思ったことに一歩踏み出していけるように。

学校・家庭・地域で子どもたちを見守り、声をかけ、ときには一緒に悩みながら、「チーム足寄」として、子供たちの成長を一緒に支えていければと思います。

これからも、足寄小学校の子供たちと一緒に育てていきましょう。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お願い



通知表は子供の成長を見つめる“窓”

令和8年度前期の学習や生活の様子をまとめた通知表をお渡しします。

通知表には、子供たち一人ひとりの「できるようになったこと」「努力したこと」「これからの課題」が記されています。日々の学びや友達との関わり、さまざまな経験を通して、一步步成長してきた子供たちの姿が表れています。学校生活の中で、子供たちは少しずつ、「自分で考え、自分で決め、自分から行動する力」を身に付けています。こうした力は、学習だけでなく、友達との関わりや日々の生活の中で経験をを通して育まれる大切な「生きる力」です。

通知表をご覧いただく際には、成果だけでなく、これまでの努力や成長の過程にも目を向けていただきたいと思います。子供の「今」を一緒に見つめ、これからの挑戦や成長にも期待を寄せていただければ幸いです。

ご家庭でも、子供の努力や成長を一緒に喜び、これからのさらなる成長を温かく見守っていただけますよう、お願いいたします。

通知表は、子供たちの前期の努力や成長の記録です。

通知表の家庭での活用のポイント

- ①「できたこと」「努力したこと」を一緒に見つけましょう
- ②「どうしてできたのか」「どうすればもっとよくなるか」を話し合しましょう
- ③ 結果よりも過程を大切に
- ④ 通知表は“未来へのヒント”

評価だけに目を向けるのではなく、通知表をきっかけに、親子で前向きな対話をしていただけると嬉しいです。よろしくお願いします。



東京の学生さんがやってきた ～武蔵野大学プレ実習～

9月1日（火）、昨年に続き、東京の武蔵野大学の学生4名が実習にきました。教師を目指す学生です。各学年の教室に入り、子供たちと学習したり、休み時間過ごしたりしました。はつらつとした学生さんと楽しく過ごした子供たちでした。

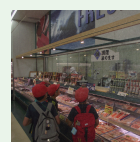


未来の教員育成プログラム

今年度から、北海道教育委員会による高校生対象の「未来の教員育成プログラム」を受け入れました。将来、教員を希望する生徒が、教員の仕事への理解を深め、素養や意欲を高めることを目的としています。

本校では、卒業生の高校2年生が、9月2日（水）～4日（金）の3日間、体験に来ました。授業の見学や児童との交流を通して、実際の学校現場で教員の仕事について学びました。

今回の経験を生かし、教員になるという夢をさらに膨らませ、これからの進路選択につなげてほしいと思います。



昆虫博士がやってきた

更別昆虫研究所から斎藤彦馬氏をお招きし、3年生の理科「虫の体のつくり」の学習を行いました。教室では、様々な虫の体のつくりや特徴、生態について興味深いお話を聞きました。普段何気なく見ている虫にも、たくさん「ひみつ」があることを知り、子供たちは目を輝かせながら話に耳を傾けていました。

その後は、虫かごと網を手に校庭へ出てフィールドワークに挑戦。「いた！」という歓声を上げながら、草むらや葉の裏などにいる虫を見つけ、観察しました。

2年生も一緒に学び、休み時間には様々な学年の子供たちが虫に触れながら、新たな発見を楽しみました。身近な自然の「ふしぎ」や「おもしろさ」に触れる、わくわくする学びの時間となりました。

芸術の秋 芸術鑑賞会

驚きと感動「中国雑技芸術団」

町の芸術鑑賞会で、「中国雑技芸術団」の皆さんによる迫力ある演技を鑑賞しました。アクロバットやバランス技など、次々と繰り上げられる高度な技に、子供たちは驚きの声を上げながら楽しく鑑賞しました。

素晴らしい演技を間近で見ることで、芸術の楽しさやすばらしさを感じるとともに、技を完成させるための努力や、仲間と息を合わせることの大切さにも触れることができました。心に残る貴重な鑑賞会となりました。

10月の行事予定

- | | |
|--------|--|
| 1日（木） | 交通安全の日
あいさつ運動
あゆみ(通知表)配付
地層見学（6年） |
| 2日（金） | 学習発表会パンフレット座席配付 |
| 5日（月） | 児童理解交流会 |
| 9日（金） | 読み聞かせ |
| 12日（月） | スポーツの日 |
| 15日（木） | 学習発表会（1・3・4年） |
| 16日（金） | 学習発表会（2・5・6年） |
| 22日（木） | 6年英検ESG |
| 23日（金） | 児童会 |
| 27日（火） | 視力検査（1・2年）
防災学習 |
| 28日（水） | 大規模炊き出し訓練
視力検査（3・4年） |
| 29日（木） | 視力検査（5・6年）
移動図書 |

